

# e-Statの現状と今後の改善について

総務省統計局

# 政府統計の総合窓口 (e-Stat)

- 各府省が公表する統計データを一つにまとめ、統計データを取得したり、地図上に表示できるなど統計を利用する上で、たくさんの便利な機能を備えた府省共通のポータルサイト
- インターネット環境があれば、誰でも利用可能
- e-Statへの統計データの登録・公表は、各府省の統計作成部局で行う
  - ※ 管理・運営主体：総務省及び（独）統計センター



統計表データの利用件数

- 令和2年度 12,729万件
- 令和3年度 25,349万件

**【統計データを探す】**

e-Statの基本機能。目的とする統計データを探し、表・グラフの表示、ダウンロードが可能

**【統計データを活用する】**

統計データをより便利に使えるよう、グラフ、地図、地域に特化した機能を提供

**【統計データの高度利用等】**

統計データをより高度に利用するため、統計マイクロデータ、開発者向けの機能・情報を掲載

API機能  
統計LOD

# 統計法施行状況報告(抜粋)

項目	具体的措置、方策等(抜粋)	実施時期	2021年度末時点の検討状況又は進捗状況
第3 3 統計 の活用促進・環境改善 (2) 政府統計共同利用システム等による統計データの共有・提供の推進	<p>(略) <u>機械判読可能な形式でのデータ提供の拡充、統計表の集約的な公表、API機能でのデータ利用が可能となる統計情報データベースへのデータ登録を計画的に実施</u>する。</p> <p>なお、総務省は、各府省への統計データ登録に係る周知の徹底や、各府省による統計データ登録業務を引き続き支援することに加え、各府省と連携を図りつつ調査票情報の保存形式の共通化等を進め、統計データ登録業務の効率化を図る。</p>	2018年度から実施する。	<p>総務省において、各府省の統計データの一部(2020年度に71統計、2021年度に24統計追加)について、API機能でのデータ利用が可能となる統計情報データベースへのデータ登録の支援を実施した。</p> <p>また、<u>機械判読可能な形式でのデータ提供の拡充等に必要となる、メタデータ整備等を実施している。</u></p>



統計データは、社会情勢や利用者のニーズの変化に伴い、様々な政策決定において利便性の高いかたち(機械判読化、接続可能性等)での提供が求められているところ。

公的統計に関する基本的な計画(令和2年6月2日閣議決定)で指摘された取組の現状と今後の予定について御説明する

# 統計データの利便性向上の取組

- EBPMの推進を支える戦略的資源である統計データについて、アクセシビリティ、特に接続可能性・検索性を向上させ、必要な情報をすぐに活用できるような環境作りを推進するため、以下の3つの対策を推進中

## 課題

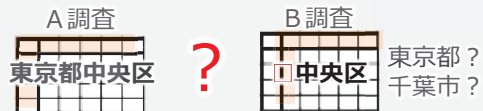
統計データに基づく政策立案・分析に、以下のような障壁が存在

- 機械が判読できない

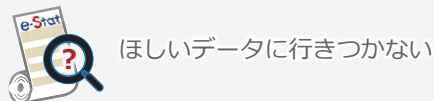
	従業員数及びパート	合計(前年)
令和元年	17 3	20(19)
2年	15 3	18(20)

いわゆる「紙エクセル」

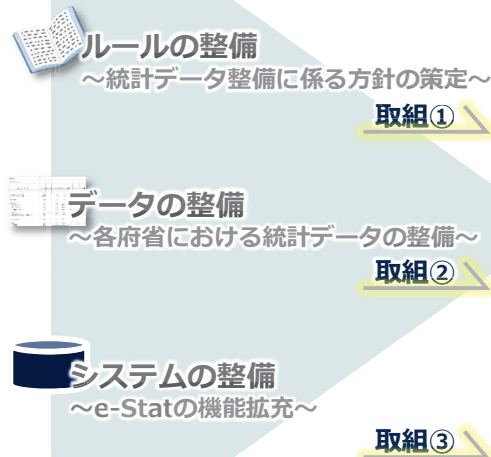
- 調査間の接続ができない



- 検索しにくい



## 対策



## 将来

統計データの利活用が促進され、EBPM、アジャイル型政策形成に寄与

- データの利便性が向上



- 検索性、操作性が向上



# 統計データの利便性向上の取組①

## データ整備に係る府省統一ルールの策定

- e-Statで提供する統計データの利便性向上（機械判読、接続可能性、検索性）を促進するため、整備に当たって必要な考え方や実施方法を統一的な観点で明確化及び具体化した方針を策定

### 統計データの整備に係る基本方針

令和3年7月9日決定

（統計企画会議申合せ及び統計調査等業務最適化推進協議会）

- 基本理念の記載、対象となる統計を掲載

### 具体化

### 主なガイドライン

令和4年末決定予定

- Excel・csvの整備について : Excel・csvを機械で判読可能とするための具体的な方法  
（令和2年12月先行実施）
- メタデータの整備について : 接続可能性と検索性を向上させるための具体的な方法

取組②-1

取組②-2

- 各府省は、所管する統計の周期や特性、システムのライフサイクルを考慮し、計画的に取り組むこととしている

# 統計データの利便性向上の取組②-1

## 機械判読性の向上（表記方法の整備）

- **令和2年**12月、データベースを整備する上で、まずはexcel形式の統計表を機械判読可能な形式で整備を進めるべく「統計表における機械判読可能なデータ作成に関する表記方法」を策定

### 機械判読化の例

機械判読が**不可能** 印刷や目視が前提

年次	東京都	出荷本数 <small>括弧は前年度</small>
平成30年	1,000	256(118)
31	2,000	330(301)
令和2年	3,000	13(33)
3	4,000	409(398)

例1：文字間のスペース挿入  
→「東京都」では検索不可能

例2：記載の省略  
→検索や並べ替え不可能

例3：和暦のみの表示  
→元号をまたいだ連続性がなくなり、並べ替え不可能

例4：1セルに複数値  
→文字列として認識、計算不能

例2・3

例4

機械判読が**可能** プログラムの利用が前提

年次 (西暦)	年次	東京都	出荷本数	出荷本数 前年度
2018	平成30年	1000	256	118
2019	平成31年	2000	330	301
2020	令和2年	3000	13	33
2021	令和3年	4000	409	398

統計分析ソフト、Excel、Webサイト等での利便性が向上

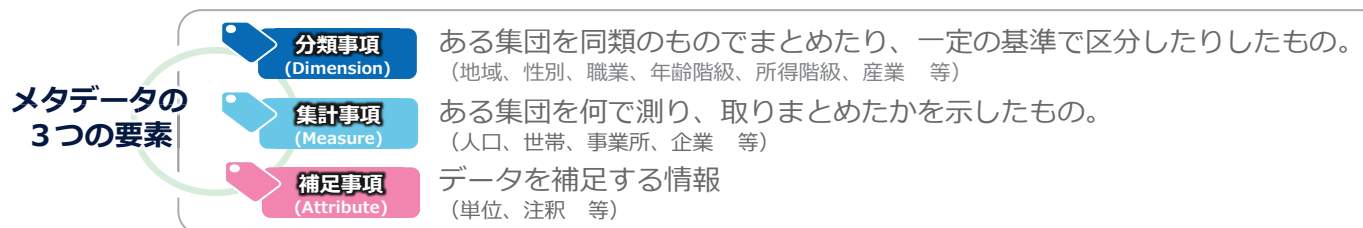
- 本表記方法に基づく、「政府統計の総合窓口（e-Stat）」への統計表の掲載については、**「令和3年1月以降公表分」から適用**  
(各府省のシステム更改、外注等により即時対応できないものは、各府省の準備が出来次第、順次対応とする。)

# 統計データの利便性向上の取組②-2

## 接続可能性の向上（メタデータの整備）

- 接続可能性を向上させるための「メタデータ（metadata）※」に係る環境を整備中
- 予算措置を踏まえ、**R4年度**に整備し、**R5年度**から本格運用予定

※ 「データ」についての「データ」、タグ付のようなもの。国際標準等を踏まえ、3つの要素（分類・集計・補足）で構成。



### <<メタデータ整備イメージ>>

要素が混在又は不足した状態

...	...	男_44歳	男_45歳	...
...	...	...	...	...
さいたま市	...	16,130	19,245	...
川口市	...	6,582	8,022	...
...	...	...	...	...

- 分類事項（性別と年齢）が混在
- 補足事項（単位）がない

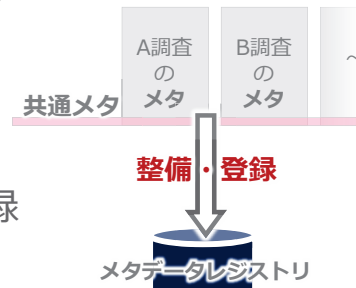
整備

分類事項 → 2019年度市町村別人口 ← 集計事項

		男		女
		44歳	45歳	...
		[人]	[人]	...
さいたま市	...	16,130	19,245	...
川口市	...	6,582	8,022	...
...	...	...	...	...

補足事項

分類事項				集計事項	補足事項
年度	男女別	年齢	地域	人口	単位
2019	男	...	...	人口	人
	女	44歳	さいたま市		
		45歳	川口市		
		...	...		



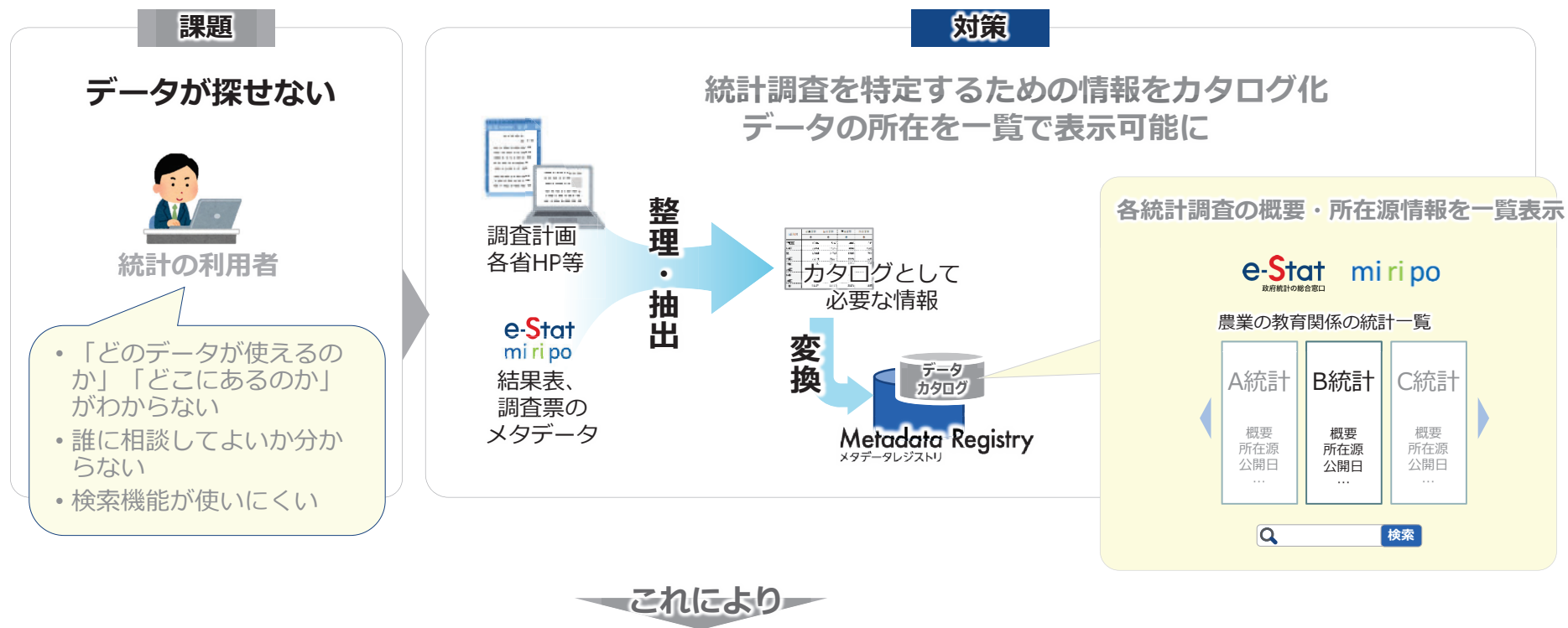
総務省では、「ひな形」となるメタデータを整備の上、政府統計共同利用システム内のメタデータレジストリ（構築中）に登録

メタデータの整備を進めていくことで、検索性の向上も期待（次ページ）

# 統計データの利便性向上の取組③

## 検索性の向上・所在源の明確化（データカタログの整備）

- e-Statの検索性を向上させるとともに、統計データの種類や所在などを案内する「データカタログ」を整備予定
- R5年度の予算要求の結果を踏まえ着手、R6年度運用開始予定



- 政策の効果をリアルタイムに把握・検証し、速やかに改善する「アジャイル型政策形成」の基盤として寄与
- 検索精度を向上し、データ利活用にかかる外部検証可能性を高めることで、統計の品質確保に寄与